

2015年8月12日

## 第201回日本経営倫理学会・理念哲学研究部会例会の議事録

部会長・村山元理

8月11日(火曜)18:00-20:00 学士会館308号室

参加者:速水、山本、宇佐神、辻井、望月、長塚、新川、村山の8名

欠席連絡:緒賀、竹内、古山、遠藤、佐藤(陽) 連絡なし:佐藤(聡)、井上、西藤

議題:『文藝春秋』2015年8月号の特集記事「戦後70年 崩壊する神話この国のかたちを問う53人の提言」(7/10発売)から3つの記事を取り上げて各自が紹介し、全体で議論した。

望月:佐々木毅の三権分立論、尾木直樹の教育委員会論、中西輝政の平和主義論・・・文科省の財界人にこびて実利教育を優先して、人文系・教育系の縮小に関する通達は間違っている。

辻井:丹羽宇一郎:私の伊藤忠時代の社長、無給・運転手なしで4500億円の負債は償却した。論理に筋がある。駐日大使の時に、梯子を外された。中国から大変尊敬されている。李登輝と、土井善晴:関西では辻と土井の2つの料理学校が花嫁修業先で、洋食の土井料理学校に妹たちも通った。

山本:李登輝、岩井克人:スペキュレーション中心の資本主義を批判。櫻井よしこ:憲法9条の前文は死んでいるとの論は、筋が通っている。

速水:櫻井よしこ、戦後70年を回顧して、90歳になる父が南京虐殺は報道されているほどの規模でないことなど戦争時代の回顧録を執筆。多々良民男『一自伝的随想—私の遙かなる昭和』の抜粋を配布。李登輝、藤原正彦の尊敬する教師とは深い教養の持主。私の教育体験からも反省すべき立論。

宇佐神:小出裕章の反原発論。佐々木毅の三権分立論。櫻井よしこ。西洋とは違うの日本と何か、イエ社会が確立された江戸時代の組織原理がある。マッカーサーが禁書にした『アメリカの鏡 日本』(1948年、ヘレン・ミアーズ)が漸く一部だけ翻訳された。アメリカは本当の日本の姿を隠蔽させている。日本の自虐史観を乗り越えねばならない。こららの提言からは21世紀への処方箋が出ていない、それは我々が論じていかねばならない。

新川:大原康男の皇室論、阿川佐和子の怖い父論、三浦朱門の役割を終えた「壇」論。共通して権威ある存在やシステムが無くなったことを論じている。立石泰則の未来の投資を怠った大企業の凋落の話も同じ趣旨。日本の家電メーカーの凋落の原因をモット知りたい。

長塚:憲法9条こそ、戦争を根本的に反省した平和日本の根本的原理である。その前提として、攻められない日本、疑われない日本、宮澤賢治の思想を实践した日本でないといけない。9条の解釈は色々あるが、軍隊をもたないのが本来の意味である。抑止力としての軍勢力という思想そのも

のが間違っている。安倍政権のもとで軍事産業が復興している。日本には戦略がなく、先の戦争に対する反省が出来ておらず、アメリカに追随している。アメリカは鬼畜米英であったのに。

村山:山折哲雄の宗教思想、水の反逆。鈴木敏文の流通革命論。石破茂のアイドル論。戦争体験への反省に関する立論がなかった。

山本:NZのシンガー教授の質問。掛け算の出来ないソ連兵の話。

以上